

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】令和 2 年 8 月 13 日 (2020.8.13)

【公開番号】特開 2019-206181 (P2019-206181A)

【公開日】令和 1 年 12 月 5 日 (2019.12.5)

【年通号数】公開・登録公報 2019-049

【出願番号】特願 2019-114879 (P2019-114879)

【国際特許分類】

B 4 1 M 5/382 (2006.01)

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

B 3 2 B 7/06 (2019.01)

【F I】

B 4 1 M 5/382 4 2 0

B 3 2 B 27/30 A

B 3 2 B 7/06

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 6 月 24 日 (2020.6.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基材と、前記基材の一方の面上に設けられた転写層とを備える熱転写シートであって、前記転写層は、剥離層のみからなる単層構成、又は前記基材から最も近くに位置する剥離層を含む積層構成を呈しており、

前記剥離層は、重量平均分子量 (Mw) が 70000 以上 92000 以下で、且つガラス転移温度 (Tg) が 70 以上 100 以下のアクリル系樹脂を含有している、熱転写シート。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本開示の一実施形態の熱転写シートは、基材と、前記基材の一方の面上に設けられた転写層とを備える熱転写シートであって、前記転写層は、剥離層のみからなる単層構成、又は前記基材から最も近くに位置する剥離層を含む積層構成を呈しており、前記剥離層は、重量平均分子量 (Mw) が 70000 以上 92000 以下で、且つガラス転移温度 (Tg) が 70 以上 100 以下のアクリル系樹脂を含有している。

本開示の一実施形態の熱転写シートは、基材と、前記基材の一方の面上に設けられた転写層とを備える熱転写シートであって、前記転写層は、1 つの層からなる単層構成、又は 2 つ以上の層が積層されてなる積層構成を呈しており、被転写体上に前記転写層を転写し、前記被転写体上に転写後の前記転写層の表面を、JIS-R-3255 (1997) に準拠したマイクロクラッチ法で測定したときの臨界せん断応力が $0.9 \times 108 \text{ N/m}^2$ 以上であり、且つ、前記転写層の剥離力が $7.5 \times 10^{-2} \text{ N/cm}$ 以下であり、前記転写層の剥離力が、熱転写シート供給手段、加熱手段、熱転写シート巻取り手段、前記加熱

手段と前記熱転写シート巻取り手段との間に位置し搬送経路に沿って搬送される熱転写シートの引張強度を測定する測定手段、前記加熱手段と前記測定手段との間に位置する剥離手段を有するプリンタを用い、印加エネルギー 0.127 mJ/dot 、熱転写シートの搬送速度 84.6 mm/sec の条件にて、被転写体上に前記転写層を転写しながら、前記被転写体上に転写された前記転写層を、 50° の剥離角度で前記熱転写シートから剥離するタイミングにおいて、前記測定手段により測定される熱転写シートの引張強度であることを特徴とする。